

国語科年間指導計画【現代の国語】

■単位数

2

■使用教科書

現代の国語 改訂版(大修館書店)

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

【知識及び技能】

(1) 言葉の特徴や使い方に関すること

ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。

イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。

ウ 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や言葉の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。

カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。

(2) 情報の扱い方に関すること

ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。

イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。

ウ 推論の仕方を理解し使うこと。

エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関すること

ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。

【思考力、判断力、表現力等】

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の考えを的確に伝えるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。

ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度を考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

C 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
(2) 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	配当予定時数	
		(1)			(2)	(3)	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと					
		アイウ	エオカ	カ	アイウ	エオ	ア	アイウ	エ					アイ
4	構成を工夫しながら話す			●				●			話の構成や展開を工夫しながら話し合いをしよう	展開をとらえて討論する	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	6
5	構成を工夫しながら書く		●						●		構成を工夫しながら、自分の考えを文章にまとめる	わかりやすく書く	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	7
6	文章の構成を捉えながら読む			●						●	論理構造を把握したうえで、筆者の考えの核心を読み取る	水の東西	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	5
7	表現を工夫しながら話し合う	●						●			相手に伝わるよう、表現に工夫した話し合いをしよう	伝わるように話す	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	7
9	書いた文章を評価する			●					●		自ら問いを立てて、文章を書く	意見を書く	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート (3)-振り返りの記述	7
10	自ら設定した題材をもとに書く			●					●		題材を設定し、レポートにまとめよう	課題をとらえ直しながらレポートを書く	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	7
11	論理の展開を意識しながら読む	●								●	論理展開を意識しながら筆者の見解をつかもう	白	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
	よりよい聞き方を検討する		●						●		よりよい聞き方を検討しよう	理解を深める質問をする	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
12	表現を工夫しながら書く			●					●		相手に伝わるように工夫して、自分の考えを伝えよう	気持ちを伝える通信文を書く	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	6
1	形式に応じて話す			●				●			グループ内で意見をまとめよう	論点を共有して話し合う	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
	複数の文章を比較しながら読む			●					●		複数の文章を読み、比較してみよう	能は美をどう感じるか	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
2	構成や表現を工夫しながら書く			●					●		テーマを決め、まとめよう	文章を読み取って主張を書く	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
	話し合いの目的に応じて、話し合いの仕方を工夫する			●					●		テーマごとに話し合いの方法を考え、実際に話し合おう	発想を広げる	(1)-定期テスト、小テスト (2)-ワークシート、定期テスト (3)-振り返りの記述	4
3	1年間の振り返り													1

□ 「話すこと・聞くこと」に関する指導の予定単位数

□ 「書くこと」に関する指導の予定単位数

□ 「読むこと」に関する指導の予定単位数

25

時間 (20~30単位時間程度)

31

時間 (30~40単位時間程度)

13

時間 (10~20単位時間程度)

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	歴史総合	2	1年	1年

使用教科書	副教材等
歴史総合(東京書籍)	明解 歴史総合図説 シンフォニア(帝国書院)

<p>科目の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できるようにする。 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できるようにする。 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解できる。
② 思考・判断・表現	歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を持つようとしている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容への取り組み 発問評価 課題、提出物の内容 小テスト 定期テスト 振り返りの内容 対話的な学びに対する取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	序章 歴史の扉	歴史と私たち	私たちの生活が日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。	○		
		歴史の特質と資料	歴史資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	○		
5	第1章 近代化と私たち	近代化への問い	人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。		○	○
6		アジアの繁栄と西洋近代の形成	18世紀・19世紀における諸地域間関係を理解する。	○		
7		世界の一体化と多様な近代化	近代的な政治や国際関係のしくみを理解する。	○		
8		近代化と現代的な諸課題	主題について多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	○	○	
9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	国際秩序の変化や大衆化への問い	国際秩序の変化や人々の生活や社会の在り方が大衆化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。		○	○
10		第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦はなぜ起こり、国際秩序はどのように変化したのかを考察する。		○	
11		経済危機と第二次世界大戦	人類はなぜ二度目の大戦へ向かったのかを考察する。		○	
12		国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	主題について多面的・多角的に考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	○	○	
1	第3章 グローバル化と私たち	グローバル化への問い	人々の生活や社会の在り方がグローバル化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現する。		○	○
2		冷戦と世界経済	東西両陣営の対立が世界の政治・経済にどのような影響を与えたかを理解する。	○		
		世界秩序の変容と日本	グローバル化の進展と問題点について理解する。	○		
		現代的な諸課題の形成と展望	主題について多面的・多角的に考察・構想して探究し、現代的な諸課題を理解する。	○	○	

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学 I・数学A	5	1年	

使用教科書	副教材等
数研出版 新編 数学 I・数学A	数研出版 3TRIAL 数学 I + A

<p>科目の目標</p> <p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数学と人間の活動との関わりに着目し事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	数と式		二次の展開公式及び因数分解の公式の理解を深める。	○		○
			不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。	○		○
6	2次関数		不等式の性質を基に一次方程式を解く方法を考察する。		○	○
			様々な事象を数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用する。		○	○
9 10	論理と集合 場合の数と確率		二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。	○		○
			二次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。			○
11 12	図形の性質		2つの数量の関係に着目し、様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。			○
			二次不等式の解を二次関数のグラフをもとに求める。	○		○
1 2	図形と計量 データの分析		集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	○		○
			集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解する。	○		○
			順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求める。	○		○
1 2	図形と計量 データの分析		確率の意味や基本的な法則について理解を深め、確率や期待値を求める。	○		○
			事象に着目し、場合の数や確率を求める方法を多面的に考察する。		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解する。	○		○
			図形の間にある関係や性質に着目し新たな性質を見だし、論理的に考察する。		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。	○		○
			三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比の値を求める。		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○		○
			様々な事象を数学的に捉え、問題を解決し、その過程を振り返って数学的な特徴		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。		○	○
			分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解する。	○		○
1 2	図形と計量 データの分析		情報機器を用いてデータやグラフを整理し、基本的な統計量を求める。	○		○
			目的に応じてデータを収集・分析し、データの傾向・特徴を把握する。		○	○
1 2	図形と計量 データの分析		具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。	○		○
			不確実な事象の起こりやすさを、実験を基に判断し、批判的に考察する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理基礎	2	1年	

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 物理基礎(数研出版)	三訂版 リードLightノート物理基礎(数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動と様々なエネルギーについて理解することができる。 実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の運動や種々の現象に関して課題を発見し、エネルギーの変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それら表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質の運動やその変化に関心をもつことができる。 日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	物体の運動とエネルギー	運動の表し方 物理量の測定と扱い方 運動の表し方 直線運動の加速度	物体の運動の表し方を理解し、直線運動における加速度の求め方を身につけている。	○		
			直線上で運動する場合の物体の変位について、速度と加速度の関係を表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
6 7	物体の運動とエネルギー	様々な力とその働き 様々な力 力のつり合い 運動の法則 物体の落下運動	身の周りにある様々な力について、つりあっている場合や運動している倍についてどのようなことが起こるかを考えることができる。	○		
			物体の運動について、運動の三法則を用いて説明することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
9 10	物体の運動とエネルギー	力学的エネルギー 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	各物体についての運動エネルギーと位置エネルギーについて理解することができる。	○		
			エネルギーの変化を用いて思考し、力学的エネルギーの保存について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
11 12	様々な物理現象とエネルギーの利用	波 波の性質 音と振動 熱 熱と温度 熱の利用	波の性質や熱について理解し、エネルギー変化の考えを用いて求めることができる。	○		
			波や熱の性質を用いて、日常にある現象について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
1 2	様々な物理現象とエネルギーの利用	電気 物質と電気抵抗 電気の利用 エネルギーとその利用 物理学が拓く世界	電気の性質や抵抗などの電気回路について理解し、実験を通じて身につけることができる。	○		
			電気の基本的な知識を用いて、日常に用いられている様々なエネルギーについて思考し、現象について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	1年	

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 生物基礎(数研出版)	三訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等 思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等 主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	・生物がもつ共通性について理解している。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。	○		
			・さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
一学期 期末テスト	遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。	○		
			・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・免疫のはたらきを理解する。	○		
			・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察でき ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。	○		
			・遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系保全のために行われている活動を理解する。	○		
			・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	1年	1学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。
評価方法	
・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
		ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○

6	水泳	クロール	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
7	体育理論	スポーツの始まりと変換文化としてのスポーツ	スポーツの歴史的発展と多様な変化について理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			多様なかわり方によるスポーツ文化の変容について課題を発見している。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
9 10	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画(新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
10 11	球技 ダンス	ベースボール型	身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
11	ダンス	現代的なリズムのダンス	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
12	体育理論	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	オリンピズムやオリンピック、パラリンピックの価値について理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツの経済的効果が社会へもたらす影響について、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の考えを他者に伝えている。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
12 1	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
2	体育理論	スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツの高潔さが環境へもたらす影響について、自己の言葉や文章などを通して他者に伝えている。	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
			スポーツの文化的特性についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	1年	1学年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)	現代高等保健体育ノート(大修館書店) 図説現代高等保健体育(大修館書店)

科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について、理解を深めること。 ・安全な社会生活について、理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともにそれらを表現することができる。 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。 ・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の点検、確認、分析(定期テスト、小テスト、スキルテスト、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	安全な社会生活	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	事故の実態と被害の実態、事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを説明できる。 安全のために必要な個人の行動、全ての人達の安全を確保するために必要な環境整備について説明できる。 交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について説明できる。交通事故における責任を3つに分けて説明できる。 応急手当の意義を説明できる。傷病者を発見した時に、確認・観察するポイントをあげることができる。 日常的な怪我や熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。実際に日常的な怪我や熱中症の応急手当ができる。 心肺蘇生法の方法と手順を説明できる。実際に心肺蘇生法を行うことができる。	○	○	○
7 9 10 11	現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康	様々な健康の考え方や健康を成り立たせている要因について説明できる。 我が国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について説明できる。 生活習慣病の種類と要因、一次予防、二次予防について説明できる。 がんの種類や原因、一次予防、二次予防について説明できる。 がんの主な治療法や緩和ケア、検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。 健康と運動の関係、目的に応じた健康的な運動の仕方について説明できる。 食事と健康の関係、健康的な食事のとり方について説明できる。 健康と休養の関係及び適切な休養のとり方、健康と睡眠の関係及び健康に良い睡眠のとり方について説明できる。 喫煙者やその周囲の人に起こる害、喫煙対策について個人と社会に分けて説明できる。 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、健康問題に対する個人や社会環境への対策について説明できる。 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響、薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策を説明できる。	○	○	○
12 1 2		12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	精神疾患の例をあげ、発病の要因と主な症状を説明できる。現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 精神疾患を予防する方法、精神疾患の早期発見のために必要なことを説明できる。 精神疾患の治療、適切な治療や回復のためにどのような社会環境が必要か説明できる。 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。新興感染症と再興感染症が流行する要因を説明できる。 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。感染症への個人と社会の対策を説明できる。 性感染症・エイズが他の感染症と異なる点について説明できる。予防と対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について説明できる。 社会環境の健康への影響、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を説明できる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
美術	美術 I	2	1年	1年

使用教科書	副教材等
美術1(光村図書)	

科目の目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創作活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
② 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	
ア・創作への取り組み イ・仕事の丁寧さ、作品の内容 ウ・アイデアスケッチやワークシートへの記述内容 エ・提出物の内容 アからエ これらを観点別に見取り総合的に評価する。	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	身近なものを描く	A表現 絵画 p.6	身近にあるものを見つめ直し、描く方法や材料を工夫してあらわすことができる。	○	○	○
5						
6	レコードジャケットデザイン	A表現 デザイン p.48 B鑑賞	伝えたいイメージをもとに、画面構成や配色、曲やアーティストのイメージにあったロゴデザインを考え、トータルデザインをすることができる。	○	○	○
7						
9	墨で描く	A表現 絵画(日本美術) p.12	日本に古くから画材として用いられてきた墨による表現の豊かさを感じとり、墨の特性を生かして作品を描くことができる。	○	○	○
10	鑑賞パブロ・ピカソ	B鑑賞 p.44	ピカソの生涯や作品を知り、新たな表現を追求する姿勢を感じ取ることができる。	○		○
11	校内撮影会	A表現 映像メディア表現 p.66	表情や動きに注目したり、被写体との距離感を意識したりして、身近な人の姿を写真であらわすことができる。映像メディアの特性を踏まえ、色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。	○	○	○
12	イラストレーション	A絵画 表現	撮影した写真を参考にして人物をイラスト化する。イラストレーションの表現の特性を生かし、形や色彩を単純化や省略、協調をし画面構成を考え、創造的な表現をすることができる。	○	○	○
1	凧作り(アジアの伝統文化や娯楽の中にある美。)アジアの美術、中国・韓国の書画及び東南アジアの文様を参考に描く。	A表現 絵画 工芸 工作	和紙の着彩→竹ひごでの組み立て→凧揚げ を授業の一環で行う。和紙に墨で描いた経験を生かし素材を効果的に生かし表現できる。材料の特性を知り正確に組み立てができる。日本及びアジアの伝統と文化を学び、日本及びアジアなど諸外国の美術に対する見方や、感じ方を深め、日本の美術文化を発信していくことができる。	○	○	○
2	デッサン 目と手を描く。	A表現 絵画 デッサン p.80	対象物をよく観察し、2BとHBの鉛筆を使い分け影と光を表現することができる。理想の構図とポーズを考察し関節を意識して描くことができる。目のガラス質をよく観察し細部まで描くことができる。	○	○	○
3						

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションI	3	1年	

使用教科書	副教材等
BRIGHTEST English Communication I	BRIGHTEST English Communication I WORKBOOK Database 3300 基本英単語・熟語

科目の目標 (1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 (2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。 (4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	Spectacular Landscapes	Lesson 1	世界の美しい絶景についての文章を、整理しながら読み取ることができる。	○	○	
			自分が訪れてみたい国や地域について調べ、グループ内で発表することができる。		○	○
6	A Prize for Funny Research	Lesson 2	イグ・ノーベル賞を受賞した研究について読み、概要を読み取ることができる。	○	○	
			身近なテーマの科学的実験について調べ、問・実験方法・結果について書くことができる。		○	○
7	A Very British Tradition	Lesson 3	イギリスの伝統文化である紅茶の歴史について聞き取り、時系列に理解することができる。	○	○	
			自分の好きな飲み物について、自分の考えを理由や根拠とともに聞き手にわかりやすく話すことができる。		○	○
9	The Art of Changing Behavior	Lesson 5	食品廃棄問題についての文章を読み、詳細を理解することができる。	○	○	
			自分の住む地域に設置する自動販売機を紹介するポスターを作成し、発表することができる。		○	○
10	Nature Positive	Lesson 6	ブレイルノイエの開発者のインタビューを聞き、開発の経緯を読み取ることができる。	○	○	
			校内でのユニバーサルデザインの導入の具体案を提案することができる。		○	○
11	Egg Whipping: Science and Food	Lesson 7	たまごの泡立てについての文章を、食品と科学の関係を考察しながら読むことができる。	○	○	
			たまごの調理手順や秘訣について、自分の考えを根拠とともにペアやグループ内で話し合うことができる。		○	○
12	Origami Engineering	Lesson 8	折り紙の技術が新しい分野で応用されていることを知り、本文の詳細を読み取ることができる。	○	○	
			折り紙の技術を使って発明したいものについて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、発表することができる。	○	○	○
1	Recipe for Happiness	Lesson 9	幸せを感じる瞬間に脳内で起こることについて、段落の形式を理解しながら読み取ることができる。	○	○	
			幸せを感じる時の脳の特徴や、自身の経験について、ペアやグループ内で話し合うことができる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現 I	2	1年	

使用教科書	副教材等
EARTHRISE English Logic and Expression I Standard	

科目の目標 (1) 話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (2) 話すこと[発表] 日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (3) 書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法
ペーパーテスト パフォーマンステスト

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
4	自己紹介 他者の紹介	Lesson1 Introduce Yourself to Your Class	・自分自身のことについて、SNSプロフィールを作成し、他者と正確に伝え合うことができる。		○	○
5	予定・紹介	Lesson2 How Do You Spend Your Weekends? Lesson3 Where Did You Go on Vacation?	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の出来事や自己の経験について、ポスター等を用いて、発表することができる。 ・パートナーを誘うe-mailを作成し、その招待に応じる返信ができる。 		○	○
		パフォーマンステスト	身の周りのことについて紹介(発表)		○	○
6	能力・許可・義務・謝罪 道案内	Lesson4 How Can I Get There?	<ul style="list-style-type: none"> ・道案内を、正確に行うことができる。 ・他者に対しての謝罪の文章を、助動詞を用いて、書くことができる。 	○		○
	依頼・勧誘・推量・紹介過去を振り返る	Lesson5 Would You Like to Come with Me? Lesson6 Something Really Japanese	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介・依頼や勧誘をする場面を、ロールプレイを通して、やりとりすることができる。 ・自分が後悔したことについて、助動詞を用いて、文章を書くことができる。 	○		○
7	パフォーマンステスト		Show and Tell		○	○
9	目的・希望	Lesson7 Do You Do Any Volunteer Activities?	・将来の夢や希望について、その理由を含めて、伝え合うことができる。	○		○
	提案	Lesson8 Let's Enjoy School Life!	・学校を紹介する、スピーチを行い、提案をすることができる。		○	○
10	調査・分析	Lesson9 Are You Eco-Friendly?	・環境保護について調査し、グループで結果をグラフにまとめ、分析結果を発表することができる。		○	○
	パフォーマンステスト		グラフを使用し、調査結果についてグループで説明。(発表)		○	○
11	インタビュー	Lesson10 What Sport Do You Like?	・他者の情報や意向について、インタビューを通して、聞き取ることができる。	○		○
	情報発信 意見・考えを述べる	Lesson11 That's New to Me!	・読んだり、聞いたり、調べたりして得た情報について、紹介したり、自分の意見を書くことができる。		○	○
12	人物や物について説明する。	Lesson12 Which Nobel Prize Winner Do You Admire Most? Lesson13 I'm interested in history.	・自身の興味・関心をもった人物や建造物について紹介する文を、理由を添えて書くことができる。		○	○
	パフォーマンステスト		プレゼンテーション(発表)		○	○
1	比較・分析	Lesson14 Various Countries around the World	・資料を示し、その特徴や傾向について説明するパラグラフを書くことができる。	○		○
2	興味・関心 将来の夢	Lesson15 What job are you interested in?	・興味・関心のある職業や将来の夢について、エッセイを書くことができる。		○	○
3	パフォーマンステスト		発表(スピーチ)【個人】		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
家庭	家庭基礎	2	1年	全類型(必修)

使用教科書	副教材等
家庭基礎 明日の生活を築く(開隆堂)	LOOK UP!!(開隆堂)

科目の目標
<p>●人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図り、それらにかかわる技能を身につける。</p> <p>●家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を育てる。</p> <p>●様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解をしているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する姿勢(発表の内容やプリントへの取り組み状況) ・提出物(家庭生活に関する課題) ・ホームプロジェクト(レポートや製作物) ・実習・実技(技能・製作物や作品) ・定期試験(学習内容の理解・定着度) 	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	ガイダンス 青年期	1 人の一生と青年期	生涯発達と青年期について理解する。	○		
		2 自分らしく生きる	性とパートナーシップについて理解する。		○	
5	家族・家庭	3 将来を考えながらこれからを生きる	これからの進路や働き方について理解する。			○
		1 自分が拓く人生	生活設計と家族・家庭について理解する。	○		
6	生活設計	2 個人・家族と地域・社会	個人・家族と地域・社会の関係について理解する。		○	
		3 家族と法律	家族・家庭生活に関する法律について理解する。		○	
7	高齢者	4 共生社会を生きる	共生社会の特徴について理解する。			○
		1 様々な高齢期	人の一生について、様々な生き方があることを理解する。	○		
8	保育	2 高齢期の生活を支える	高齢者の特徴について理解する。	○		
		3 子どもの世界	高齢者にかかわる福祉について理解する。			○
9	衣生活	1 子どもの人を引き寄せる力・育とうとする力について理解する。	子どもの人を引き寄せる力・育とうとする力について理解する。	○		
		2 あたらしい生命の誕生	乳幼児の心身の発達の特徴について理解する。		○	
10	住生活	3 子どもの発達	乳幼児の発達には順序があることを理解し、発達の目安を捉える。			○
		4 子どもとかわる	基本的な生活習慣や社会的な生活習慣の重要性について理解する。	○		
11	消費生活と持続可能な社会	5 社会の中で子育て	子どもの健康と安全について理解する。		○	
		1 被服の機能と着装	児童虐待を取り巻く問題や子どもの権利について理解する。	○		
12	食生活	2 持続可能な衣生活	子育てを支える福祉や子どもに関する社会保障について理解する。			○
		3 衣生活における持続可能な社会について理解する。	持続可能な社会を目指して自分ができることを考える。			○
1	食生活	4 持続可能な住まいと暮らし	社会的状況によって求められる住宅機能の変化について理解する。	○		
		1 生活を支える経済	住居の平面図について読み取ることができる。		○	
2	食生活	2 健康で快適な住まい	健康で快適、安全な住生活を営むことができる住居の条件を理解し、対策ができる。		○	
		3 住まいの防災・減災	災害の特徴について知り、災害意識を高める。		○	
3	食生活	4 持続可能な住まいとまち	災害に強い社会に関心をもち、主体的に災害対策を考える。			○
		1 食の変遷とおいしさの追求	持続可能な住生活とはどのようなことか考え、そのために私たちができることを考える。			○
4	食生活	2 食べ物は健康の決め手	家計の管理について理解する。	○		
		4 日本と世界の食文化	家計マネジメントの知識を身につける。		○	
5	食生活	3 調理にトライ!	消費者の権利と責任について理解する。		○	
		5 食生活をプロデュース	持続可能な社会を目指したライフスタイルを考える。			○
6	食生活	3 調理にトライ!	どのように食べ、どのように暮らしているか、自分の食事を振り返ることができる。	○		
		6 持続可能な食生活	五大栄養素とその働きについて理解する。		○	
7	食生活	3 調理にトライ!	和食の特徴について理解する。		○	
		3 調理にトライ!	世界の食文化について関心をもつ。		○	
8	食生活	3 調理にトライ!	料理の様式に適した調理法などを理解する。		○	
		3 調理にトライ!	食事摂取基準について理解する。		○	
9	食生活	3 調理にトライ!	日常的な食事を整えることができる。		○	
		3 調理にトライ!	日本や世界の食料自給率の現状から食糧事情について理解する。			○
10	食生活	3 調理にトライ!	日常的な食事を整えることができる。	○		
		3 調理にトライ!	日常的な食事を整えることができる。		○	